

# 関西大学 2023年度 博物館実習展

関西大学博物館実習展  
**十二支の遷**

【開館時間】 10時～16時 2023年 11/12 (日)  
【入館料】 無料

関西大学博物館 特別展示室 (簡文館内) ~11/17 (金)  
〒565-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
TEL: 06-6368-1171 FAX: 06-6368-9928

右: 金剛冠十三支義経木彫彫 (個人蔵)  
左: 飛騨高山山王塗 粉鍍充果入形 (個人蔵)

2023年度 関西大学博物館実習展

## 装丁維新

和 綴り方の歴史 洋

2023 11.12(日) ▶▶▶ 11.17(金)

【開館時間】 10:00 ▶▶▶ 16:00  
【入場料】 無料 公式 Instagram QR  
【会場】 関西大学博物館 特別展示室 (簡文館2階)

【注 意】 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
【TEL 番】 06-6368-1171  
【アクセス】 阪急関大前駅より徒歩10分

関西大学博物館

江戸髪結文化  
髪と歴史をほとく

11/12 (日) より  
11/17 (金)迄

開館時間 10:00～16:00  
入館料 無料  
場所 関西大学博物館特別展示室 (簡文館内)  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
Tel:06-6368-1171

11 / 12 ▶ 17 (日) (金)

場 所: 関西大学博物館  
特別展示室 (簡文館内)  
開館時間: 10:00～16:00  
(入館15:30まで)  
休 館 日: 会期中無休  
入 館 料: 無料

お〜盛んちね、大阪展

2023年度 関西大学博物館実習展

11/12 (日) ▶▶▶ 11/17 (金)

開館時間 10:00～16:00  
入館料 無料  
場 所 関西大学博物館 特別展示室 (簡文館2階)  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
TEL: 06-6368-1171

【注 意】 新築第一の城公園  
(大阪市立国書館学芸ホール7-2114)

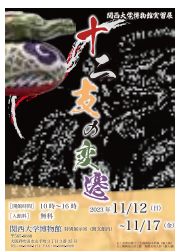
二〇二三年度 関西大学博物館実習展

新旧万博から見る  
大阪史

2023年 11.12 (日) ▶▶▶ 11.17 (金)

【開館時間】 10:00～16:00  
【入館料】 無料  
【場所】 関西大学博物館特別展示室 (簡文館内)  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
TEL: 06-6368-1171





## 十二支の変遷

十二支の起源は、中国の殷代に遡ります。当初は、十二年を周期とする木星の位置を示すために使われていました。十二支に現在と同様の動物を充てるようになったのは、後漢からです。さらに隋代では、獣頭人身像の十二支が出現し、近国の新羅や日本などに伝播します。その代表としてキトラ古墳壁画が挙げられます。中世から近世の日本では、絵巻や曆に描かれた十二支が主となり、中でも現在のカレンダーにあたる「大小曆」は、その出来栄を競い合って発展していきました。本展示では古代に始まり、近現代に至るまでの十二支の変遷をご覧ください。



## 装丁維新 -綴じ方の歴史-

皆さんが普段読んでいる本の制作過程は案外知られていないことかと思えます。日本では糸を使った伝統的な方法で装丁された「和装本」がありましたが、明治維新による西洋化によってその装丁は針金などを使った西洋的なものになり「洋装本」が徐々に広まるようになりました。その中でも、和装本と洋装本の過渡期における装丁は「ボール表紙本」といい、文明開化を経験した日本にしか存在しない独特な装丁となっています。本展ではその歴史の転換点であるボール表紙本を中心とし、日本の書籍の装丁がどのように変わっていったのかを紹介いたします。そしてこのような変化が何をもたらしたのか、是非皆さんの目でお確かめ下さい。



## 江戸髪結文化 ~髪と歴史をほどく~

かつて平安時代の女性は髪を長く垂らす垂髪という髪型が主流でした。平安から戦乱の時代を経て、江戸時代には動きやすいように髪をまとめることが一般的になりました。現代の私達は髪もお洒落の一環として、自由に髪型を楽しんでいる一方で、江戸時代の女性は身分・年齢・既婚・未婚で髪型が決まっていました。規定が細かく定められていた中でも女性たちは数多の髪型を生み出していき、彼女たちもお洒落を楽しんでいたのです。本展は、江戸時代の女性の髪結に焦点を当て、髪型の多様さを当時の風俗画から読み解いていきます。また、関西大学博物館が所蔵するガラス櫛やガラス簪をご覧ください。意匠を凝らした品々をぜひご堪能ください。



## お〜盛んやね、大阪！ 大大阪展

皆さんは「大大阪時代」と聞いて何を思い浮かべますか？「大大阪時代」とは、大正から昭和初期にかけて大阪の経済や文化が大きく発展した時代を指します。関東大震災や地域拡張などの影響により、1925(大正14)年には大阪市が東京市の人口を上回り日本最大の都市として急成長を遂げました。私たちの生活に欠かせない社会インフラが発達、整備されると共に、大衆文化も花開いたことで市民の暮らしがより一層豊かになりました。本展では、「大大阪の幕開け」、「世はまさに大大阪時代!」、「大大阪と今」の3部構成とし、大阪における画期となった時代の一端をご紹介します。当時の大阪の華やかさに触れ、「大大阪」に思いを馳せ、身近に感じていただければ幸いです。



## 新旧万博から見る大阪史

1970年に開催された「日本万国博覧会」から、2025年に開催される「日本国際博覧会」を軸として、万博に関連して発展していった大阪の歴史を紹介します。特に、万博の開催地である「大阪」を中心にインフラ、都市景観の写真を取り上げます。さらに、1970年では万博をきっかけに生まれたものや流行したものが変化していく様子を、2025年では1970年の万博との比較をして万博によってまち、ひいては大阪がどのように変わっていったのかという内容を取り上げていきます。そして1970年から2025年までを振り返り大阪の歴史がどのように進展していったか。そして、2025年の万博を機に「大阪」はどのように進化していくのか。新旧万博を通じて今一度振り返ります。